

平成二十六年 度 中 学 校



(一 回)

〔 注 意 〕

- 一. 監督^{かんどく}の先生の指示があるまで、中を開けないでください。
- 二. 最初に受験番号と氏名を解答用紙の指定欄^{もん}に記入してください。
- 三. 字数指定がある問いでは、句読点・記号なども一字として数えます。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定欄に記入してください。
- 五. 下敷き・色鉛筆^{えんぴつ}を使用することはできません。
- 六. 問題は13ページまで印刷されています。
- 七. 試験の「開始」・「終了」は監督の先生の指示に従ってください。
- 八. 問題用紙は持ち帰ってください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数指定がある問いでは、句読点・記号なども一字として数えます。)

わたしたちは、赤ちゃんがそうであるように、最初は身ぶりや声をあげること*1で情報活動、すなわちコミュニケーションをおこないます。そのうち、声は分節化されて言葉になっていき、身ぶりは踊りやダンスおどのようなものに発展します。

いまでもわたしたちは、うれしいとびあがりたり、手をたたいたりしますね。怒ると手をあげたりします。①これらの身ぶりは、やがてちゃんとした踊りやダンスに発展するのです。そういう踊りやダンスは、村のお祭りのようなときにつくられていったのでしょう。

② *2 そうすると、そこにはそれぞれの文明の中でつかわれる情報の表現のちがいが生まれます。「はじめに」のところで「情報」

は英語ではインフォメーションとくちようといって、「何かをかたちにする」ということだと説明しましたが、世界各地にそのように情報をかたちにするときの特徴が生まれてくるのです。民族や部族や風土や土地柄とちがらによって、そして言葉づかいや身ぶりによって、さまざまな情報のかたちのちがいが出てくるのです。

これが文明の中に生じた「文化」です。言葉や身ぶりは地域で文化のちがいをもっているのですね。この文化のちがいから、各地にさまざまな文字が誕生していきました。

たとえばエジプトでは象形文字ができますが、これはヒエログリフとよばれる絵文字です。フクロウとかいろいろな動物の絵が文字になっています。中国では甲骨文字こうこつという漢字のもとになった文字がつけられました。ギリシアの文字は、くさび形文字から生まれてきたフェニキア文字からつくられました。ユーラシア大陸のほとんどの地域でつかわれている文字

は、みんなこのフェニキア文字の系統です。

これでもいいことがわかってきたと思いますが、文字って「情報の要素」なんですね。その文字をつかっているいろいろなことが表現できると、いよいよ記録もできるようになるので、これは文字という「情報の要素」によって、新たな「情報の様式」が生まれたということです。

様式というのはスタイルのことです。洋服やその着かたにスタイルがあるように、情報もいろいろなスタイルをもつようになっているのです。そうだとすると、文化とは、そうした「情報の様式」のことだったのです。

文字は文明や文化ごとに、エジプト文字とか漢字とかアルファベットというように、ちがったかたちをもっています。文字だけではなくて、古代社会にはたとえば、服装のちがいか、ひものむすびかとか、色のつかいかたもちがいが出てきます。

これをちよつとむずかしい用語でいうと、「情報の要素」と「情報の様式」が各地でそのあらかたをちがえて発達してきた、というふうに見ることができます。

情報の要素を「情報のコード」、情報の様式を「情報のモード」というふうにもいいます。「コード」というのは、文字やひものむすびかたなどのことです。「モード」というのは、それらをつかうスタイルのこと、生活でのいかしかたのことですね。

それぞれの文明や文化は、それぞれの情報のコードをつかって、各地で独特の情報のモードをつくり出していくのです。

とても大事なことでしつかりとおぼえておいてください。

なぜ重要なのかというと、やがて世界がシルクロードや大航海によって交流するようになると、情報のコードとモードのちがいをこえて、共通のものをつくろうとする動きがおこってくるからです。とくに近代になると、このような情報のコードとモードは、いろんなメディアや商品になって、地域のちがいをこえたものになるのです。

ここで、文明と文化をくわしく説明しておきましょう。

まず「文明」というのは、地域的にも時代的にも大きな領域で確立したものをいいます。「文化」は、その文明の中の一部を担っています。文明はそれぞれの地域の特性をいかしつつ、大きなグループで情報のコードとモードのかたちをつくります。そしてこの次の段階として、農村文化とか山岳文化とか、またルネサンス文化とか元禄文化など、文明圏の中でたくさん文化をつくります。

⑧ 文明圏の中でそれぞれの文化ができてくる時代には、言葉もどんどん分かれていきます。これを「言語文化」といいます。このことを物語にしたものが旧約聖書に入っています。旧約の「約」は「神さまと約束した」という意味です。旧約聖書はユダヤ教の聖書です。ユダヤ教はユダヤ人やイスラエルの多くの人たちが信じている宗教です。その旧約聖書の中の『創世記』という物語の中に「バベルの塔」という話がおさめられています。

どういう話かというと、昔の人びとはみな同じ言葉をつかっていた、意志をつうじあうことができていました。そこである日、天までとどく塔を建てて有名になろうとするのですが、神さまはそれを見てこころよく思いません。そこで言葉を混

乱させて人びとをちりぢりにさせてしまった、というお話です。「バベル」とは「混乱」を意味しています。

実際にも、世界中で文明は大きな地域に分かれて、それぞれの言葉をもつようになっています。人類の起源はアフリカだといわれていますが、そのころはまだ共通の言葉どころか、言葉そのものがまったくなかった時代です。ちなみに最初の人類は、考古学者によつて「ルーシー」という名前がつけられています。女の人だったんですね。

やがてアフリカから各地に散つていった人類は、世界でバラバラになりながら言葉をもつて、たくさんの方の古代語を話しはじめます。そのうちこれらが離合集散（りうしゅうしさん）（集まったり散ったりすること）をくりかえして、しだいにドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、中国語、日本語というふうになり、それぞれの民族ごとに言葉をもつて定着していきました。そこには共通の古代語をもとにしたものもたくさんふくまれています。

いま例に出したドイツ語や英語やフランス語は、アルファベット文字をつかったローマ字を基本にしているので、アルファベット・グループです。

アジアではどうでしょうか？ 中国ではこのようなアルファベットとはまったく異なる漢字がつけられました。ペルシアやトルコやアラビアではアラビア文字がつけられます。アラビア文字はアルファベットとは逆に、右から左に書いていくのです。このように、各地で文字がちがうということは、話す言葉もまったく異なるものだったということです。

日本ではどうでしょうか？ 漢字を利用して、漢字とともに平仮名やカタカナを発明して、これらを組みあわせてつかうようになりましたね。漢字は漢字文明という大きなものをつくりましたが、その漢字をつかうようになった朝鮮や日本は、

それぞれ異なる漢字文化をつくるんです。

文明と文化のコードとモードについて、日本のばあい(a)のことをちよつと考えてみましょう。

日本では現在も漢字をつかっていますが、これは三〇〇年くらい前の甲骨文字をもとに中国大陆でいくつもの変遷を経てつくられてきた文字ですね。漢の時代に確立したので、これを「漢字」とよんでいます。

漢字は、アルファベットがわずかに数十文字による「表音文字」であるのにたいして、世界の文字文化の中でも圧倒的な質と量を誇る「表意文字」です。ふつうにつかわれる漢字でも、一万字以上もあることが最大の特徴です。

日本は石器時代や縄文時代(c)ごろまで、ずうつと文字のない国でした。無文字社会だったのです。

古墳時代にかけてすこしずつ古代韓国(d)をとおして漢字を入れるようにした。仏教や儒教の本が、中国大陆や朝鮮半島からとどくと、日本にやってきた渡来人にもいろいろ教わりながら、これらの本が読めるように漢字や漢文をマスターするようになりました。

B 漢字や漢語をつかつていても、日本人は中国語で生活しようとはしなかったんです。日本はここで、日本文化の

独自性を守ろうとしたんですね。そもそも言葉の系統も、中国語と日本語はちがっている（日本語のルーツは中国の北のほうにおこったアルタイ語系の言葉だと考えられています）、日本人は独自なやりかたで漢字をつかおうとしたわけです。

とくに天武天皇のころから、漢字を積極的に日本語の使い勝手にあわせる工夫がこころみられました。これが「万葉仮名」です。たとえば、「はる」を「春」という漢字とはべつに、「波留」ともつづり、「はな」を「波奈」というふうになり、

やこ」を「美夜古」とつづりました。^⑪

C 漢字を略した書きかた（くずし字）をするようになると、そこから平仮名をつくった。たとえば平仮名の「あ」は漢字の草書の「安」から、「は」は草書の「波」からつくりました。けれどもその「あ」という文字には「安」のもつ「やすい」とか「あんしん」の意味はありませんし、「は」には「海の波」の意味はありません。仮名は D 文字になったのです。

これでわかるように、日本人は、中国がつくりだした漢字文明圏の情報コードを共有しつつも、日本文化圏ではそこから独自の情報モードをあみだして、漢字と仮名を併用するようになったのです。^⑫

まずは文字の話をしてみましたが、日本の文化の歴史には、こういうことがいろいろあります。

たとえば仏教はインドに生まれ中国で大きな潮流となったものですが、日本はこれらを輸入し、学習しながらも、しだいに独自の日本仏教をつくりあげました。その代表的なものが法然の浄土宗や、親鸞の浄土真宗で有名な念仏宗です。仏教につきものの難行苦行をやめて、ひたすら「南無阿弥陀仏」を唱えるだけで浄土に行けることを約束した仏教です。浄土というのは死後にも、またこの世でも、心のやすらぎがもとめられるバーチャル・ランドのことです。^⑬

音楽のほうでも、日本は中国の情報コードを習いながらも、そこから独特の音階や楽器を生み出しました。琵琶や尺八がそのようなして生まれ、新たな日本音楽になっていったのです。^⑭

このように情報文化には、世界共通なものもあれば、その民族や文化に独自なものもありうるのです。これを「土着文化」

とか「ローカル・カルチャー」とか「ドメスティック・カルチャー」といいます。世界共通の文化のほうは「グローバル・カルチャー」といいます。グローバルは「地球大の」という意味で、カルチャーというのは「文化」という意味です。

こうして空間として文明ができあがった中に、時間の流れをいかした、たくさん文化ができあがっていくのです。風土と言葉と技術がいかにしたんですね。日本でいえば縄文文化や弥生文化や飛鳥文化や平安文化や江戸文化などの、さまざまな文化が、時代とともに生まれて、次の世代の文化に交替しながら現代まで姿を変えてきました。^⑮

（松岡正剛『未来のおとなへ語る わたしが情報について語るなら』による）

*1 分節化Ⅱ―続きの声をいくつかの区切りに分けて言葉を生み出すこと。

*2 「はじめに」Ⅱ本文の前書きで筆者は、「情報」という言葉は「しらせ」「判断」「知識」という辞書にのっている意味のほかに、「何かをかたちにする」という意味も持っている」と述べている。

*3 バーチャル・ランドⅡ仮想世界。

問一、――線①「これらの身ぶり」とは、具体的にどのような行動を指していますか。本文中から十字以内で三点ぬき出して答えなさい。

問二、――線②「そこ」が指している内容を、本文中からぬき出して答えなさい。

問三、——線③「ちがったかたちをもっています」とありますが、何が「ちがったかたち」を生み出すのですか。本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問四、——線④「情報のモード」としてふさわしくないものを、次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 言葉 (イ) 洋服 (ウ) 音楽 (エ) 文字

問五、——線⑤「共通のものをつくろうとする」とありますが、「共通のもの」とは何ですか。本文中からぬき出して答えなさい。

問六、——線⑥「地域のちがいをこえた」と同じ意味を表す言葉を、本文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問七、——線⑦「文明圏の中でたくさんの文化をつくります」とありますが、その理由としてふさわしくないものを、次の

- (ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。
 (ア) それぞれの地域の特性がちがっているから。
 (イ) それぞれの言語の特質を表そうとするから。
 (ウ) それぞれの情報のモードやコードが異なるから。
 (エ) それぞれ独特の生活のスタイルがあるから。

問八、——線⑧「このこと」とはどのようなことですか。本文中の言葉を用いて答えなさい。

問九、——線⑨「共通の古代語をもとにしたものもたくさんふくまれています」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の(ア)～(エ)の中から選び、記号で答えなさい。

- (ア) もともとは同じ文明圏で生活していたから。
 (イ) 人類は皆、アフリカを起源としているから。
 (ウ) 全ての文字はローマ字を基本としているから。
 (エ) 昔の人びとは皆、同じ言葉を使っていたから。

問十、——線⑩「の」の中で、ちがうはたらきをしているものを一つ選び、記号で答えなさい。

問十一、——線⑪「A」に当てはまる言葉を、次の(ア)～(オ)の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- (ア) もし (イ) さらに (ウ) しかし (エ) ところで (オ) そこで

問十二、——線⑫「独自のやりかた」とありますが、これをわかりやすく説明した一文を、これより前の本文中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問十三、——線⑪「つづりました」の主語を答えなさい。

問十四、Dに当てはまる漢字二字の言葉を、本文中からぬき出して答えなさい。

問十五、——線⑫「日本人は、中国がつくりだした漢字文明圏の情報コードを共有しつつ」とありますが、「中国がつくりだした漢字文明圏の情報コードを共有」するとは、具体的にどのようなことにすることですか。次の文の に当てはまるように、本文中の言葉を用いて答えなさい。

【漢字を用いて こと】

問十六、——線⑬「日本文化圏ではそこから独自の情報モードをみだして」とありますが、「日本文化圏」がみ出した「独自の情報モード」としてふさわしくないものを、次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

(ア) 仏教 (イ) 万葉仮名 (ウ) 念仏宗 (エ) 琵琶

問十七、——線⑭「たとえば」が直接かかっている部分は、——線⑰～㊦のどこですか。記号で答えなさい。

問十八、——線⑮「行」と読み方がちがうものを、次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

(ア) 行政 (イ) 改行 (ウ) 行水 (エ) 素行

問十九、本文中には、次の段落がぬけています。どこに入れるのが適当ですか。その直後の段落の、最初の五字をぬき出して答えなさい。

カタカナはちよつとちがつて、「ア」は「阿」の「㇗(コザトヘン)」をそのまま用い、「ウ」は「㇘(ウカンムリ)」のかたちをそのままウにした。カタカナは漢字の一部をとってつくられています。

問二十、本文中に書かれていることとしてふさわしくないものを、次の(ア)～(エ)の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 世界の地域によって文字がちがうのは、それぞれの地域によって文化がちがうからである。
- (イ) 近代に近づく地域がちがいをこえ、共通のものをつくろうとする動きが見られるようになってきた。
- (ウ) 民族や地域によって異なる独自の情報文化が集まると、「ドメスティック・カルチャー」が生まれる。
- (エ) 日本人が中国語を使おうとしなかったのは、日本の文化の独自性を守ろうとしたからである。

二、後の①～⑤の意味をもつ慣用句になるように、次の□に漢字を一字ずつ入れなさい。

□がはやい。

① せっかちである。

② くさりやすい。

③ うわさをすぐに聞きつける。

④ てきばきと片付ける。

⑤ 気のつくのがはやい。

三、次の①～⑤のことわざの□に入る言葉を、下の意味を参考にしてひらがなで答えなさい。また、後の(ア)～(ク)の中から、①～⑤の□と同じ言葉を入れて成り立つものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① えびで□をつる。 (小さな元手で大きな利益を得ること)

② 飼い□に手をかまれる。 (めんどろを見てきた人に、裏切られたりひどい目にあわされたりすること)

③ □にかつおぶし。 (好きなものをそばに置くと、安心していられないこと)

④ やぶをつついて□を出す。 (余計なことをして、かえって自分がこまること)

⑤ □百まで踊り忘れず。 (若いときに習い覚えたことや身についた習慣は、年をとっても忘れないということ)

(こと)

(ア) □の一声 (イ) □につままれる (ウ) □のなみだ

(エ) □があう (オ) □をかぶる (カ) □も食わない

(キ) □の生殺し (ク) くさっても□

四、次の①～⑦の——線部を漢字に改め、⑧～⑩の——線部の読みをひらがなで答えなさい。

① あの人には人の上に立つキリヨウがある。 ② 保育園に本をテイキヨウする。

③ 各国首脳のキヨウギの上で決定した。 ④ セツドを守って生活する。

⑤ 選挙の結果はヨダンを許さない。 ⑥ 仮説の確かさをケンシヨウする。

⑦ コウリツのいい勉強方法を考える。 ⑧ 国家の存亡の危機が訪れる。おとず

⑨ 居心地のよい家に住んでいる。 ⑩ おみやげを無造作に差し出す。



受験番号			
氏名			